

二〇二〇年度

一般入試① 問題（国語）

注意書き

- ・試験開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- ・解答用紙二枚のみ集めます。問題冊子は持ち帰ってかまいません。
- ・この冊子には問題が一ページから二三ページまであります。万一、足りない部分があったり印刷が見にくかったりする場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
- ・解答はすべて解答用紙の枠わくの中に記入し、用紙には、関係のない文字・記号類を書いてはいけません。
- ・字数指定のある問いは、句読点なども字数にふくめること。
- ・解答用紙を集め終わっても、試験監督の指示があるまでは席を立たないこと。

一、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

保育園で、杏美は香奈枝と「仲良し二人組」だった。

思えば、家が近くて母親どうしが顔見知りだったというだけの理由だったが、赤ちゃんの頃から一緒にいて、周囲からも先生からも「仲良し二人組」として扱われると、ちいさな園の中で、その関係はほぼ固定化された。

四歳<sup>さい</sup>になっても、香奈枝は「はじゅちゃん」と、舌足らずに呼んだ。

そのころ杏美は保育園の同じ学年の子たちの中で、一番背が高かった。自分でもよく覚えている。<sup>注</sup>リトミックでも体操でも、何をやってもいちばん上手で、みんなができないのが不思議なくらいだった。お絵描きの時間は大得意だった。他の子たちがどうにかして人間を描こうとしても全部お化けみたいになっちゃう時に、杏美は前髪も眉毛も首も、丁寧に描いた。上手ねえ、とおとなに褒められるたび、自分は特別なんだと思った。

ある時香奈枝が、大きくまるを描いて、その中にぐりぐりと目玉らしきものをぬりこんでいた。できあがったものをみんなに向けて言った。

——これ、はじゅちゃん。

にこにこしている香奈枝を見て、カッととなった。

——わたし、そんな顔じゃないよ！

1 自分でもびっくりするくらい、険しい声が出た。その声に、目の前の香奈枝が固まった。

香奈枝は無言で消しゴムを探し、ごしごしと絵を消した。消して消して、その指先が真っ赤になるくらいに力を込めて消しているうち、紙が破けてしまったから、さすがに申し訳なくて、杏美は焦った。けれど、優しい言葉を香奈枝にかけることが、どうしてもできなかつた。

あの時のことを、香奈枝は忘れてしまったのだろうか。杏美ははっきり覚えている。あんなに強く反応してしまったのは、同じころ母親の多美子が香奈枝の写真を見ていて、

——この子は将来、美人になるわ。

と言ったからかもしれない。

ため息のこもったようなその声には、深い実感があつた。

2 ——でも、かなちゃんは何にもできないんだよ。

なぜか杏美はそんなことを言った。

——いいのよ。あれだけ可愛いんだから。

多美子はさらっとそう言ってから、

——あなたは不器量だから、しっかり勉強して、みんなの役に立つ仕事に就かないとね。

と、杏美に言った。

それからしばらくして香奈枝が保育園を退園した。

わたしが絵のことで怒ったから、香奈枝を傷つけてしまったのだろうか、子どもながらにはらはらと後悔した。そのことを多美子に言ったら怒られそうな気がして、杏美はずっと黙っていた。

実際は、香奈枝の母親が仕事を辞めたために、幼稚園に転園したというだけのことだったが、幼い杏美にそんな事情は分からなかつた。だから、小学校の入学式で香奈枝が満開の笑顔で近づいてきてくれた時、<sup>3</sup>世界が一気に輝いたように感じた。ふたりが再び、「二人組」になった。当たり前のことだけど、香奈枝はもう「はじゅちゃん」ではなく「あずちゃん」と、呼べるようになっていた。

秋になり、学芸会で『白雪姫』を上演すると発表された。

配役が発表されると、

「あずちゃん、何の役やる?」

香奈枝に訊かれた。杏美は、ほんの少しだけ白雪姫役に惹かれていたけれど、なぜか、

「ナレーター」

と言った。

「かなちゃんは？」

「あたし白雪姫に立候補する」

きっぱり言う香奈枝の目はみずみずしい野心に満ちていた。

すでに杏美と香奈枝の力関係は変わりつつあった。香奈枝はクラスで一番背が低く、発想も幼く、絵や字もへたくそで、計算も遅い。何もかも杏美に負けているのに、一向に気にしていないようだ。気が強くわがままで、そのわがまますす力を持ち始めている。

「白雪姫なんて、セリフ全然ないじゃん」

香奈枝のまっすぐな物言いが眩しすぎて、杏美はそんなふうにした。白雪姫役は五人。十の台詞を、五人がふたつずつ担当するのだ。ナレーターには三つ台詞がある。それ以上、台詞のある役はない。皆が平等に目立てるように、先生たちが台本を作ったのだろう。動物だの妖精だの、いろんなが出てきて、一つ、二つ、皆が喋る。

「だって、ドレス着れるの、白雪姫だけでしょ。それに」

と、香奈枝が思いがけないことを言った。

「あずちゃんも一緒に白雪姫やれば、一緒に練習できるよ」

「え……？」

杏美は困った顔を作った。

「やろうよ、やろうよ」

「でも……どうしようかな」

甘ったるい食べ物を不意打ちで舌にのせられたような気がした。

白雪姫役に手を挙げる時、どきどきした。立候補者はぴったり五名。全員仲良く白雪姫になることができ、安堵の息がもれた。

その日の夕方、一緒に通っていた公文教室にお迎えにきた多美子と香奈枝ママに、二人は口々に白雪姫役をやることを報告した。香奈枝ママは「やったね」と言い、香奈枝の手のひらと自分の手のひらをパチンと合わせた。一方、多美子は、

「やあだ、五人の中で杏美だけがノッポじゃないの、入れ替わった時に変な感じになっちゃうじゃない」

とぶつぶつ言った。香奈枝ママは、そんな多美子に苦笑いをしながら、

「あずちゃんと一緒に白雪姫できるなんて、カナ、良かったね。おんなじドレスのお衣裳を着て、写真をいっぱい撮りたいね」

と杏美に声をかけた。

「白雪姫のドレス、親が作るのかしらね……香奈枝ちゃんには似合うでしょうけど、うちはどうかしら……」

まだぶつぶつ言っている多美子だったが、いつもよりはその目が優しく細められている気がした。

——おんなじドレスのお衣裳を着て、写真をいっぱい撮りたいね。

香奈枝ママの言葉が、ポップコーンみたいに軽やかに、耳元で弾け続けた。

その日、公文教室からマンションの近くの別れ道まで、杏美は香奈枝とつないだ手をぶんぶん振って、勇ましく歩いた。

しかし翌日の朝の会で先生が、白雪姫役を決め直すと聞いたのだった。なんでも昨日休んでいた飯田麻耶が、親を通じて電話で白雪姫役に立候補したいと伝えたらしい。

皆の前で、六人でじゃんけんをして、香奈枝が負けた。

大泣きするかと思った香奈枝は無表情で引き下がった。先生が何か言葉をかけていたけれど、香奈枝は黙っていた。

休み時間に杏美が香奈枝に話しかけるとぶいっと横を向かれた。香奈枝は、杏美だけではなく、他の誰ともしゃべらなかつた。杏美は、白雪姫役を奪った飯田麻耶が平気な顔で授業を受けているのを、信じられないような思いで見ている。香奈枝の不機嫌は、何かじわじわとした首輪になって、自分に巻きついてくるようだった。

だから、給食の準備時間に、

「あずちゃん……」

と香奈枝に声をかけられたとき、杏美はようやくこの首輪を外せると思った。

「あずちゃんは本当は白雪姫、演りたくなかったんだよね？」

意を決した顔の香奈枝の目はきれいだった。

「あずちゃん、本当は、ナレーター演りたかったんでしょ。だったら……」

「わたし、やめてもいいよ」

皆まで言わず、杏美は言った。

「え、本当？」

香奈枝の顔がぱあっと光る。

「先生に行こう」

杏美は香奈枝の手を握った。香奈枝の手を、自分から握るのは久しぶりだった。香奈枝が、

「よかった」

と言った。うん、よかった。わたしはもともと白雪姫なんて演りたくなかったんだから。台詞が多いナレーターを演りたかったんだから。

それなのに、先生に許可を得て、<sup>9</sup>正式に白雪姫から降りた時、取り返しのつかないことをしてしまったような気がした。

ちゃんと頼まれていないし、ちゃんとお礼も言われていない。急にそんな考えが湧いて、香奈枝を責める気持ちがむくむくと湧き上がった。ちゃんと頼ませないように、ありがとうを言わせないように、そうしたのは自分だったのに、どういうわけか、<sup>10</sup>酷く不当なことをされた気がした。

「あずちゃんが、うちのカナに、白雪姫役を譲ってくれたそう。本当にありがとうございます。あずちゃんは、優しい子ね」

数日後の公文の帰り道、香奈枝ママが多美子に礼を言うのを聞いていた。

そのことを知らなかった多美子は、一瞬黙ってから、ぱかっと箱を開くような笑顔になって、

「いいのいいの。うちのなんて、白雪姫って柄じゃないし、香奈枝ちゃんが演ったほうがずっと様になるわよ」

と言った。

それなのに、家に帰ってから、

「杏美が白雪姫役を降りたこと、知らなかったよ。よく我慢したね」と、杏美に言った。

我慢？

ノッポの杏美には似合わないって、お母さん、何度も言っていたくせに。

「我慢なんかしてないよ！ わたし、白雪姫なんて、本当はやりたくなかったんだから」

多美子は本当は自分に白雪姫をやってもらいたかったのだ。そう思ったら、<sup>12</sup>「我慢」のひと言は、鑢みために耳たぶを擦った。

「五人でやる役なんて、ばっかみたい」

いくらひらひらしたドレスを着たところで、台詞ふたつの白雪姫より、みつつ喋れるナレーターのほうが、賢い選択なんだ。たとえナレーターは舞台には立たず、その下でマイクを使ってしゃべる役だったとしても。

（朝比奈あすか『君たちは今が世界』）

⑩ リトミックⅡ音楽を通して子どもの育成をはかる教育プログラム。

不器量Ⅱ顔かたちが整っていないさま。

問一 —— 線部1「自分でもびっくりするくらい、険しい声が出た」とあるが、それはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分よりも周囲の人間からの評判がよい香奈枝が、自分よりずっとへたくそな絵を描いていることが気に入らなかつたから。

イ 将来美人になりそうというだけで、香奈枝のへたくそな絵が自分の絵よりもほめられるのがくやし、不公平に感じたから。

ウ 母親に可愛くないと言われた自分の顔を、可愛いとほめられた香奈枝にへたくそに描かれたことが不快で、許せなかつたから。

エ 母親から不器量と言われて落ち込んでいる自分を、へたくそな似顔絵ではげまそうとする香奈枝の無神経さに腹が立ったから。

問二 —— 線部2「なぜか杏美はそんなことを言った」とあるが、「杏美」がどのように言ったのはなぜだと考えられるか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 急に香奈枝のことを深い実感を持ってほめ始めた多美子の意図がつかめなかつたので、香奈枝の悪口を言ってみることで、多美子の真意がどこにあるかを知りたいと思ったから。

イ 何一つうまくできない香奈枝のことをふだんから心配していたため、何もできなくても可愛ければ全く問題ないと簡単に考えている多美子の考え違いを正したいと思ったから。

ウ 香奈枝は多美子の言うようにたしかに可愛いが、実際はただ可愛いだけで、不用意に人の神経を逆なでするようなところがあるので、手放してほめられていることに反発したから。

エ 何をやってもうまくできない香奈枝が、可愛いということを多美子にほめられていることは、何をやっても自分がいちばんだと思っていただけに、納得がいかないことだったから。

問三 —— 線部3「世界が一気に輝いたように感じた」とあるが、それはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香奈枝にきつい言葉を浴びせたことに罪悪感を抱いていたが、笑顔で話しかけられたことで、香奈枝が何も思っていないことが分かり、気持ちが悪くなったから。

イ 自分が冷たい態度をとったことを香奈枝が気にしていなかったため、自分の後悔がむだであったことがっかりしながらも、負い目がなくなつてせいせいしたから。

ウ 香奈枝が母親の事情で転園したことを知るまでは、多美子の機嫌をそこねたことを後悔していたが、これからは何も気にせずに香奈枝と仲良くできると思ったから。

エ 昔のひどい行いを香奈枝本人が入学式の日に笑顔で許してくれたため、直接顔を合わせることへの恐怖がなくなり、今後は香奈枝に気をつかわずに済むと思えたから。

問四 —— 線部4「杏美と香奈枝の力関係は変わりつつあった」とあるが、それはどういうことか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 杏美にとって、香奈枝は自分に従うだけの都合のいい存在でしかなかったが、いつの間にか香奈枝のわがままに杏美が従うようになりつつあったということ。

イ 杏美からすれば、自分より劣つていて特別な存在であるとも思われなかつた香奈枝が、いつの間にか杏美よりもクラスで存在感を示しつつあったということ。

ウ 杏美にとって、いつも一緒の「二人組」で対等の存在であった香奈枝が、今では力を持つようになり、クラスの中で扱いに差ができてきつつあったということ。

エ 杏美からすれば、香奈枝は何もできない存在で自分が支えてあげる必要があつたが、今ではクラスから一目置かれる立派な人間になりつつあったということ。

問五 —— 線部 5 「甘ったるい食べ物を用意せず舌にのせられたような気がした」とあるが、この時の杏美の気持ちを説明したものとして適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あきらめていた白雪姫役が思いがけず演じられるようになったことを喜びつつ、どう演じたらよいのかと迷っている。
- イ いきなり白雪姫役をおしつけてくる香奈枝に不快感を抱き、それでも役を引き受けるしかないとうんざりしている。
- ウ 香奈枝と同じ衣装で演じられるうれしさから立候補を前向きに考える一方で、役自体にはまだ好感を持っていない。
- エ 自分には縁がないと思っていたはなやかな役と一緒にやろうと急に言われ、照れくさく感じつつとまどっている。

問六 —— 線部 6 「杏美は香奈枝とつないだ手をぶんぶん振って、勇ましく歩いた」とあるが、この時の「杏美」についての説明として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ふだんからその可愛らしさに対してあこがれを抱いていた香奈枝とともに、白雪姫役を演じられるようになったことの喜びが全身に広がっている。
- イ 香奈枝と同じように白雪姫役を演じることで、香奈枝よりも自分の方が白雪姫にふさわしいことを多美子に必ず認めさせようと意気込んでいる。
- ウ 白雪姫という大役を本当に演じられるようになった喜びを改めてかみしめ、可愛い香奈枝と同じように主役を演じるほこらしさを体中で感じている。

エ 多美子とは違い、香奈枝と白雪姫役を演じられるようになったことを喜んでくれた香奈枝ママに感謝し、その期待にこたえようと決意している。

問七 —— 線部 7 「杏美はようやくこの首輪を外せると思った」とあるが、それはどういうことか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 白雪姫役を降りることになった香奈枝に、自分は何もしてあげられず申し訳ないと思っており、何とか香奈枝を元気づける機会をさぐっていたので、これでやっと香奈枝をばげましてあげられると思つてうれしくなったということ。
- イ 白雪姫を演じられないことを香奈枝が納得するはずもなく、いずれは白雪姫役を演じたいと大泣きするだろうと思つていたが、意外にも冷静に話しかけてきたことで、面倒なことに巻き込まれる心配がなくなり安心したということ。
- ウ 白雪姫役をめぐって飯田麻耶と香奈枝が対立する様子を見ていられず、自分から役を譲ろうと考えていたところに、香奈枝が機嫌よく話しかけてきたことで、ようやく役を譲ってあげられると思つて気持ちがあすきりしたということ。
- エ 白雪姫を演じられなくなって香奈枝の機嫌が悪くなっていることを、自分にも責任があるかのように感じて苦痛に思っていたが、香奈枝の方から声をかけてきたことで、この気まずさから解放されると思つてほっとしたということ。

問八 —— 線部 8 「意を決した顔の香奈枝の目はきれいだった」とあるが、この時の「香奈枝」についての説明として適当なもの、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 杏美はもともと白雪姫よりもナレーターをやっていたのだから、自分が白雪姫をやれなくなった以上、杏美に白雪姫の役を譲らなければならないのだと何の疑いもなく思っている。
- イ 白雪姫をやれなくなった自分のことをなぐさめてくれてもいいはずの杏美が、全くふだん通りでいるのが気に入らず、仕返しに冷たい態度を取つてやろうと気持ち固めている。
- ウ 自分が白雪姫をやれなくなったのだから、もともといろいろな能力にめぐまれている杏美は、白雪姫の役ぐらい自分に譲つてくれてもよいのではないかと気持ち整理できた。
- エ 自分は急に白雪姫の役をやれなくなったのに、自分から役を奪った飯田麻耶が平然としていることに納得がいかず、それならば自分も杏美から役を奪つてやろうと心に決めた。

問九 —— 線部 9 「正式に白雪姫から降りた時、取り返しのつかないことをしてしまったような気がした」とあるが、杏美はなぜ「取り返しのつかない」と感じるほどの後悔を抱いたのか。六〇字以上、八〇字以内で説明しなさい。

問十 —— 線部 10 「酷く不当なことをされた気がした」とあるが、この時の杏美の気持ちを説明したものとして適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香奈枝からのお願いやお礼を自分からさえぎることで、自分が優位に立てると思っていたが、結果的にはおたがいがいやな思いをしただけだったが、不本意だと考えている。

イ 香奈枝の希望を聞き入れようとしたことに対し、丁寧なお願いやお礼の言葉があるものだと期待していたが、あいまいな態度でごまかそうとした香奈枝が許せないと思っている。

ウ 一方的に人を巻き込んでおいて、都合が悪くなると身勝手なふるまいで自分に気をつかせたうえ、何のお礼も言わない香奈枝に、振り回されたようで不快な気持ちになっている。

エ 同情をさそって他人に気をつかわせた挙句、お礼の言葉も言わずうれしそうにふるまう香奈枝を見て、他人に優しく接して損ばかりしている自分に対し、怒りがこみあげている。

問十一 —— 線部 11 「多美子は、一瞬黙ってから、ぱかっとう箱を開くような笑顔になって」とあるが、この時の「多美子」についての説明として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多美子は、杏美が白雪姫の役を香奈枝に譲ったと聞いてそのいきさつを一瞬疑問に思ったものの、杏美には白雪姫よりもっとふさわしい役があると自分自身に言い聞かせ、その場をとりつくるって笑ってみせた。

イ 多美子は、杏美が白雪姫の役を香奈枝に譲ったと聞いて少し残念に思ったものの、杏美が友だちとの関係を大事にしたことを感じてうれしくなり、自分も同じ気持ちで香奈枝ママに接しようと思ってみせた。

ウ 多美子は、杏美が白雪姫の役を譲ったと聞いて少し意外に思ったものの、杏美は自分の能力を生かす道をあえて選んだのだと気づいてほめてやりたくなり、その気持ちをこの場で杏美に伝えようとして笑ってみせた。

エ 多美子は、杏美が白雪姫の役を香奈枝に取られたと知って一瞬香奈枝をにくらしく思ったものの、杏美は無理に香奈枝と張り合わない方がいいと思って、香奈枝ママから自分の気持ちをかくすために笑ってみせた。

問三 ―― 線部12「『我慢』のひと言は、鑑みたいに耳たぶを擦った」とあるが、これは杏美の多美子に対するどのような  
思いを表していると考えられるか。次の中から適当なものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 本当は白雪姫を演じてほしかったという正直な思いを言葉にせず、わが子をノッポで不器量だとさげすむことしかで  
きない多美子の冷たい性格を思い知らされ、悲しい気持ちになっている。

イ 自分をノッポで不器量だと言っていた多美子が発した意外な言葉によって、自ら賢い選択をしたのだと考え納得させ  
てきた自分の思いが台無しにされたことを、つらく不快に感じている。

ウ 自分は白雪姫の役などばかばかしいと本気で思っているのに、役を譲ったことに対して無意味な同情を寄せる多美子  
にあきれながらも、何とか本心を理解させようと、むきになっている。

エ 賢いと思った自分の選択が多美子を傷つけてしまったことに気づき、ひどくうろたえる一方で、わが子に期待してい  
た母親の思いをふみにじってしまったことを、申し訳なく思っている。

オ 白雪姫役に決まったときはあまりよい反応を示さなかったにも関わらず、役を降りたあとに本当は白雪姫を演じてほ  
しいと思っていたことをほめかしてきたことに、いら立ちを覚えている。

## 二、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

経済のグローバル化に反対して、途上国支援の活動に関わっていた人が、その後日本で、低賃金のアルバイトで働  
いている人を支援する活動に関わるようになったというお話を聞いたことがあります。

それまでは、途上国にある先進国企業の工場で働いている人や、途上国で十分な教育を受けられない人を支援する活動  
をしていたのですが、その経験を踏まえて周りを見てみると、じつは日本にいる私たちも同じような構造のなかにいること  
がわかった。大企業の上層部の人々（もちろん、その人たちはその人たちでいるんな苦しみを抱えているわけですが）は、  
アルバイトや派遣労働者といった非正規雇用の人々を安く使いながら、自らの経済活動をより発展させようとしているとい  
う点で、先進国と途上国とを問わず、じつは同じような関係があるんじゃないかという話をしていました。

さらには、途上国の労働者と同じように、アルバイトや派遣労働者はいろいろな事情から、なかなかその立場を抜け出せ  
ないことが身をもって理解できた、とその人は言うのです。「よそ」での経験が、社会問題に対する関心をつくりあげ、「う  
ち」とつながっている、と理解できた例といえるでしょう。

それでもどうしても私たちは「よそ者」であるときがあります。たとえば、アフリカの貧しい子どもがかわいそうだ、こ  
れは社会問題だ、というと、少なくとも日本語でこの本を書いたり読んだりしている私たちは多くの場合、その問題に対し  
てよそ者である可能性が高い。他にも、たとえば天災等で自分が被害を受けたとしても、「自分よりかわいそうな目に  
遭った人がいる」と思うと、その問題の当事者として振る舞いにくいと感じることもあるでしょう。

ただ、「自分がある社会問題によって、何らかの被害を受けた」という感覚からしか「わがまま」が言えないとなると、  
私たちが「わがまま」を言ってもいい範囲というのは、どんどん狭まってしまいます。「わがまま」が本来持っている可能  
性を、自分で狭めてしまうというのかな。

もちろん、想像力を活かして、一見当事者ではないように見えるけど、じつは自分もその問題の当事者なんだ！というこ  
とは、主張できなくもないでしょう。たとえば戦争の問題でも、「もしかしたら自分が徴兵されるかもしれない」というこ  
ともできる。ただ、そうやって自分が問題の当事者である領域を広げる一方で、それでも想像が及ばない「よその世界」と



いうものはあります。

(中略) 私たちの想像や視界のトドク範囲には限りがある。いくら想像しようとしても、全然生活環境が違って、私たちの思いもよらないことで苦しんでいる人はたくさんいる。そういう人たちの問題について、当事者でない人は何も口出しできないのでしょうか。自分がその問題によってほんとうに困っている。あるいは、困る可能性がある、という気持ちから出る「わがまま」でなければ、やっぱりうさんくさくて、偽善っぽい、ということになるのでしょうか。

たとえば、痴漢やハラスメントの被害がある。こういうときに被害に遭った人だけの立場から痴漢を政治的、社会的な問題にしてしまうと、それ以外の人々——ハラスメントをする側でもされる側でもないと思っている人——にとっては、「あ、じゃあ自分は関係ないじゃん。まあする人はするだろうけど、それは一部のおかしなやつだけじゃん」という感覚になっちゃってもおかしくない。実際は、他人にひどいことをしても、それを失礼だと思っていない、という多くの人の間違った認識のうえに成り立っているのだから、「おかしなやつ」に限らず、だれでもハラスメントを生み出す空気をつくっていると言える。だからこそハラスメントをしたこと・されたことのない男性も女性も、「よそ者」であるけれども関わることがあると言える。

またパツと見はハラスメントなんか全然遭わなそうなんだって、被害に遭うことはあるし、その場合表沙汰にはなりにくい。被害に遭うことが想定されやすい人々、たとえば女性や年少者とはまた違う意味で、恥ずかしくて、だれにも話せない、ということもあるでしょう。このような場合でも、多くのよそ者が痴漢やハラスメントの問題に関わっていたとしたら、すこしは語りやすい空気ができるのではないのでしょうか。ある社会問題によそ者が関わることは、被害を受けた見なされにくい被害者や悩みを抱えた人を救うことにもなるのです。

よそ者だから貢献できることはけっこういっぱいあります。五十嵐泰正さんが、『原発事故と「食」』(2018年)という本を書いています。2011年東日本大震災をきっかけに起きた福島第一原発事故後に、福島農作物は放射能汚染されているのではないか、ほんとうに食べても大丈夫か、と農作物の安全性が問われてきました。この本では長い時間をかけて市民がどのようにその信頼を回復したか、という経緯が書かれています。

このような問題は、福島に住む人や、縁のある人であればあるほど声を発しにくい。なぜかという、生産者も、もっとも被害をシンコクに受け止めている人々も福島に住んでいるのだから、「私はこう思っている」と言うことは、近くにいるだれかを傷つけたり、だれかの利益を奪うことになりかねない。それぞれに傷も深く、奪われたものも多いからうまくコミュニケーションできない。

そこで力になったのが、福島県外で生活している消費者や、原発問題について知識を持つ科学者でした。この本の著者である五十嵐さんも同じく福島の外にいる方で、だからこそ原発事故と食について、実践をまとめた本を書くことができた部分もあるんじゃないかと私は考えています。

よそ者だから関われることは、他にもあります。たとえば、アフリカなどでは、「スラム・ツーリズム」が行われています。現地のガイドの案内のもと、民家や学校、土産物屋やレストラン(というよりは「バー」とか「屋台」とかいった簡易な業態のところも多いと思いますが)などさまざまな場所への訪問を通じて、スラムの文化を理解するための観光です。貧困が生じている現場を目の当たりにしつつ、現地にお金を払うことで、経済の活性化を図る試みですが、一方でスラム住民の生活が「見せ物」になってしまう点で、倫理的な観点からは批判されています。みなさんも、「うわー、これが日本高校生の生活かー。こんなにしょぼい教室で勉強してるんだ。かわいそう」と言われたらショックでしょうから、スラム住民にもそういう気持ちを与えてしまう可能性があるということですね。

もちろん、倫理的にはこの批判の通りで、実際にはスラム・ツーリズムが成立しうる構造そのものを変えていかなきゃいけない。ただスラムの人々はそれで生計を立てていることも否定し難い事実ですし、旅が学びを与える可能性は十分にある。だから、よそ者であることをうまく使った支援や応援のあり方って、「おせっかい」という観点からすれば「アリ」ではないでしょうか。

空間のよそ者じゃなくて時間のよそ者、という考え方もできる。ある社会的被害について、「風化」という観点から語られることは、すごく多いですね。それこそ東日本大震災でも、人々の記憶から原発事故が薄れつつあることが問題にされまし、戦争の悲惨さを伝える活動でも、語り手が高齢化し、その経験を後継者へと語り継ぐことが課題視されています。

一方で、時間が経ったからこそ言えることもある。たとえば、セクシャル・ハラスメントの被害などでもそのようなコウヨウはよく聞かれるところです。当時は振り返るのもつらかったが、今になって捉え直すことができたから被害を明るみに

出した、という人もいます。こういう告発に対して、「そんなつらかったなら、なぜ今になって言うんだよ」という批判もあるかもしれませんが、つらすぎることやほんとうに思い出したくもないことって、記憶に蓋ふたをしてしまうんですよね。でも、あるとき何かスイッチが入るといふか、類似るべしの事例を目にしてはじめて、噴ふき上がるように思い出すことがあるんじゃないかと、私はある人から相談されてはじめて気づきました。

ここまでの私の考えをまとめると、「今のお前に関係ねえじゃん」と言われたら、「いや、自分のことじゃないからできるんだ」と堂々とさえいいのです。たとえば、福島や広島に住んでないとか、この問題の被害者じゃないとか、あるいは被害者であったのがはるか昔であったとか、<sup>8</sup>「どんなよそ者であっても」「わがまま」を言っている。そのような「おせっかい」が、その被害者のために、かつての自分のために、未来、もしかしたら自分が被害者になるときのためになるかもしれない。

(中略)

社会運動論には「資源しげん動員論」という理論があります。社会運動に参加する人々はどんな人かを問う理論とここでは考えてください。

それまでは、怒りや感情が人々を社会運動へと押おし進めるのだと言われてきた。しかし、資源動員論を唱えている人はどちらかといえばクールで、「お金とか時間、そういう資源を持っている人が運動に参加するに決まってるやん」と言います。「そりゃそうだろ」という感じもありますが、この理論をよそ者と当事者の議論に当てはめると、ただたんに資源のある人が運動に参加する、という以上のことが見えてきます。

震災というと2011年の東日本大震災をイメージされる方が多いと思いますが、関西では2018年に大阪府北部地震があり、私はそこで帰宅困難者になりました。

私は震災のせいで家に帰れなかったり、授業に出られなかった、つまり「被災ひさい」したにもかかわらず、自分が被災者とは思えませんでした。実際に被災地のなかでボランティアによる支援を遠慮えんりょする人はとても多くて、その人たちは「うちは、だれかに助けに来てもらうほどではない」「自分の地域は今、被害が大きいほうではない」といった理由でコトワくるのほうです。つまり、もつとひどい状態にある人々と比べれば、自分は被害者ではないと思ってしまうのですね。

こうした状況じょうきょうです9こしだけ距離きょりを置いた支援者の関わりが重要になってきます。実際に、大阪府茨木市いばらきの震災におい

ても、ボランティアは市外の人ほとんどで、とりわけ過去にボランティアで活動した経験のある災害NPO⑩の人々は大活躍だいかつしたと言います。東日本大震災のときも、全国から東北に集まったNPOやボランティア団体の力がなければ、各地の災害救援活動は実現しなかったとも言われています。食料支援やがれきの片付けだけでなく、足湯やお茶会を行ったり、亡なくなった人々の思いが詰つまった写真の洗浄せんじょうなど、必ずしも生活に必要なじゃない、でも心のケアにつながるような活動が数多く行われたのは、彼らかれがいい意味で問題のよそ者だったからでしょう。

(富永京子『みんなの「わがまま」入門』)

⑩ グローバル化⇨社会的・経済的な結びつきが、国や地域を超えて地球規模で深まっていくこと。

非正規雇用⇨期間を限定し、比較的短期間での契約けいやくを結ぶ雇用形態。

ハラメント⇨他者に対して行われるいやがらせのこと。

スラム⇨貧しい人々が固まって住んでいる場所。

NPO⇨営利を目的とせず社会的活動を行う民間の団体。

問一 〜〜線部 a e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ――線部 1 『よそ』での経験が、社会問題に対する関心をつくりあげ、『うち』とつながっている、と理解できた」とあるが、それはどういうことか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 途上国の人々を援助する活動に参加したことによって、世界の労働問題は自分たち先進国の経済活動が原因で起きていると理解したということ。

イ 自分たちとは無関係だと思われた海外の社会問題に関わって見識を深めたことで、同様の問題が身近にも存在することに気がついたということ。

ウ 遠くはなれた海外の国で起きている社会問題に関心に向け支援することが、いずれ自分たちの国に利益をもたらすことになることと知ったということ。

エ 労働問題を抱える途上国で派遣労働者として働いた経験を通じ、日本国内にも存在する似たような問題への対応の必要性を実感したということ。

問三 ――線部 2 「その問題に対してよそ者である可能性が高い」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実際に日本をはなれて「よそ」での経験を積まなければ社会問題に対する関心は育たないため、問題が起きているアフリカ諸国に直接足を運ばない限り、当事者意識を持つことは難しいから。

イ 日本語で読み書きをしているということは、アフリカ諸国の言葉を知らない可能性が高く、問題を抱える国の言語を理解しない限り、その国の社会問題に関わるのは簡単なことではないから。

ウ 貧困に苦しんでいるアフリカの子どもの問題を社会問題と位置づけたところで、日本では子どもが貧困に苦しんでいるという実態はないため、どうしても現実感をともなって考えにくいから。

エ ほとんどの日本人は、アフリカから遠くはなれた場所において、現地の社会問題について直接被害を受けて困った体験をしたわけではないので、自分たちのこととしてとらえるのは難しいから。

問四 ――線部 3 『よそ者』であるけれども関わる必要がある」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ハラスメントは、誰もが加害者や被害者になりえる問題であり、直接関係がないと思っている人もふくめて皆で話し合い考えることで、苦しむ人々を減らし支援することができるから。

イ ハラスメントは、加害者の性格だけが原因にされやすい問題であり、第三者が話し合いを通じて多様な視点から考え直していくことで、事件の根本的な原因を理解することができるから。

ウ ハラスメントは、被害者が注目されることの多い問題であり、加害者にも目を向けて両者で話し合う機会を積極的につくることで、被害者に対する真の反省を生み出すことができるから。

エ ハラスメントは、大半の人々が自分は無関係だと考えがちな問題であり、さまざまな人が参加可能で問題について語りやすい場を設けることで、世論の流れを変えることができるから。

- 問五 —— 線部 4 「そこで力になったのが、福島県外で生活している消費者や、原発問題について知識を持つ科学者でした」とあるが、それはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 福島で暮らしている人が原発や食の安全について語り信頼を回復しようとしても、消費者は信じないから。
- イ 福島に縁のない人が個人的に意見を言うだけなら、その土地の人を傷つけ利益をそこなうことはないから。
- ウ 福島に住み、被害を受けた人々こそが、誰よりも原発や農作物の安全性について不信感を抱いていたから。
- エ 福島で被災した人々に気をつかいすぎることなく、食の信頼回復のために意見を述べる事ができたから。

問六 —— 線部 5 「スラム住民にもそういう気持ちを与えてしまう可能性がある」とあるが、それはどういうことか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちの生活を興味本位だけで見学に来て、あからさまにあわれみの目を向ける観光客の横暴さが、スラム住民にくしみの気持ちを抱かせるおそれがあるということ。
- イ 自分たちの生活を見せたところで、観光客は同情するだけでスラムの文化を学んでくれるわけではないことが、スラム住民にむなしさを感じさせるおそれがあるということ。
- ウ 自分たちの生活を観光客からもめざらしそうに見られたり、あわれみの言葉をかけられたりすることが、スラム住民にみじめな気持ちを抱かせるおそれがあるということ。
- エ 自分たちの生活に同情して、現地でお金を使ってくれる観光客のおかげで何とか生計を立てていることが、スラム住民に後ろめたさを感じさせるおそれがあるということ。

問七 —— 線部 6 『おせっかい』という観点からすれば『アリ』ではないでしょうか」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由として適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア とりたてて関係もない誰かがある問題に介入すること、その人が問題について知ることや、困難を抱えている人々を支援することにもつながっていくから。
- イ その問題について何の関心もない人が気の向くままに関わろうとするだけでも、問題が世の中に広く知れわたるきっかけになる点ではよいことだと言えるから。
- ウ 問題の実情を知らない当事者以外の人が倫理的な面から批判を加えることによって、一方的な支援のあり方を見直す機会を生み出すことにつながっていくから。
- エ 単なる好奇心をきっかけに、その問題に関わろうとする人が出てきたとしても、それが結果として当事者の生活を豊かにすることになりさえすればよいから。

問八 —— 線部 7 「時間のよそ者、という考え方もできる」とあるが、筆者はどのような「考え方」について言おうとしているのか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ある社会問題が風化しそうな時に、類似した事件について後の世代の人々が社会で取り上げていくことによって、被害者が当時の記憶を語りはじめ、心を救われることがあるという考え方。
- イ ある社会問題が風化しそうな時に、後の世代の中で事件を語り継ぐと行動する人々が現れたり、時間が経ったことで事件について語れるようになる人が出てくることもあるという考え方。
- ウ ある社会問題が風化しそうな時に、後の世代の中から事件の語り手として問題に関わる人々が現れてくる一方で、事件について語ろうとする当事者を批判する人々も現れるという考え方。
- エ ある社会問題が風化しそうな時に、やっと事件について語れるようになった当事者と後の世代の人々が交流する中で、当事者に代わって事件の語り手になっていく人々も現れるという考え方。

問九 — 線部 8 「どんなよそ者であっても『わがまま』を言っていない」とあるが、それはどういうことか。次の中から適当なものをつ選び、記号で答えなさい。

ア ある社会問題について、いずれは自分の利益になることを期待して、直接の被害者でなくとも口を出すほうがよいということ。

イ ある社会問題について、自分の立場を気にすることなく、他の批判者と団結して改善の要求をしていくほうがよいということ。

ウ ある社会問題について、今の自分と関わりがなくても、必要なことを自分なりに考えて遠慮せず実行したほうがよいということ。

エ ある社会問題について、現在の自分の利害とは全く関わりのないことにこそ、当事者として関わっていくほうがよいということ。

問十 — 線部 9 「すこしだけ距離を置いた支援者の関わりが重要になってきます」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由を七〇字以上、八〇字以内で説明しなさい。ただし、次の言葉を必ず用いて答えること。

### 資源

二〇二〇年度 一般入試① 国語解答用紙(1)

受験番号

氏名

	①
	②
	③
	④
	⑤

◆右のらんには何も書かないこと。

	解答用紙2
--	-------

合計

—

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問 九			
80	60		

問十

問十一

問十二



受験番号

氏名

	①
	②
	③
	④
	⑤

	解答用紙2
--	-------

合計

◆右のらんには何も書かないこと。

問一
ウ

問二
工

問三
ア

問四
イ

問五
工

問六
ウ

問七
工

問八
ア

問九			
本	な	の	か
当	や	に	ら
は	か	、	香
白	な	お	奈
雪	役	礼	枝
姫	を	を	に
役	一	言	役
に	度	わ	を
心	は	れ	ゆ
を	演	る	ず
ひ	じ	こ	っ
か	る	と	て
れ	こ	も	し
て	と	な	ま
お	に	い	っ
り	な	ま	た
、	っ	ま	か
そ	て	、	ら
の	い	、	ら
は	た	自	分
	た	分	

問十
ウ

問十一
ア

問十二
イ
オ

(順不同)



	①
	②
	③
	④
	⑤

◆右のらんには何も書かないこと。

受験番号
------

氏名
----

小計
----

問一	
d	a
効用	賃金
e	b
断	届
	c
	深刻

問二
イ

問三
工

問四
ア

問五
工

問六
ウ

問七
ア

問八
イ

問九
ウ

問十			
が	て	た	災
る	い	資	害
支	る	源	の
援	人	に	当
を	に	余	事
行	と	裕	者
う	っ	が	で
こ	て	あ	な
と	も	る	い
が	必	か	人
で	要	ら	は
き	な	こ	、
る	心	そ	お
か	の	支	金
ら	の	援	や
	ケ	を	時
	ア	遠	間
	に	慮	と
	つ	し	い
	な		っ